

JISA CeBIT 2017 および英国 ICT 産業視察ミッション 概要報告

平成 29 年 3 月 19 日（日）～25 日（土）に、JISA 横塚 裕志 会長、向 浩一 理事、舟橋 千鶴子 理事、伊藤 整一 理事をはじめとする 17 名がドイツ・ハノーバーで開催された CeBIT 2017 とイギリス・ロンドン、ケンブリッジを訪問した。下記にその簡単な概要を報告する。

1. CeBIT 2017

ドイツ・ハノーバーで開催された CeBIT 2017 では、日本が今年のパートナー国となっており、日本の IT 企業だけでなく、IT ユーザー企業も含め、出展社数としては過去最大の 118 社が約 7,200 m²に出展していた。CeBIT 初日の 3 月 20 日朝には、安倍首相、世耕経産大臣、メルケル首相他と一緒に展示会場を視察した。また、同日午前には、ジャパンサミットが行われ、日独の政府代表者の挨拶や産業界代表者が講演を行ったほか、21 日午前には、NTT データの岩本社長やコニカミノルタの山名社長をはじめとする著名な日本人の講演も行われた。

2. itelligence 社訪問

21 日午後、ハノーバーからバスで約 1 時間半のビーレフェルトにある itelligence 社を訪問した。itelligence 社は 1989 年に設立された、主に SAP ソリューションを提供する会社で、2007 年に NTT データ社が買収した。現在、従業員は 5600 人超、売り上げは 7 億 7790 万ユーロ（2016 年）とのことで、年々、さらに大きく成長を続けているとのことであった。

3. 英国 国際通商省

ロンドンへ移動し、22 日朝に英国 国際通商省を訪問し、英国の ICT 政策と技術エコシステムについて説明を聞いた。英国の技術的な強みを最大限に活かすために、大学、産業、政府、コミュニティで、うまく連携し、大学での研究の成果やスタートアップ企業、また中小企業を成長させるための支援を政府や産業界やコミュニティで行う仕組みを構築したとのこと。

また、イギリスが欧州連合から離脱することになったが、離脱後のメリットとして、法人税の引き下げ、研究開発費に関する優遇、特許やスタートアップへの投資に関する優遇などを行う予定とのことだった。日本からのイギリスへの投資や、日英企業のパートナーシップなどを是非進めて行きたいとのことで、5 月末にイギリス企業 40-50 社でメガミッションを組んで来日する予定とのことだった。

4. University College London (UCL)

この大学は日本ではあまり知られていないが、実は、伊藤博文、井上馨、五代友厚など、明治維新以降、日本を築いた人々が学んだ大学。大学内に日本語が刻まれた記念碑もある。UCL のコンピュータサイエンスは英国でトップ、欧州でも 3 番目である。産学官を連携するイノベーションプラットフォーム (PETRAS : ペトラス) を UCL が提供しており、ペトラスパートナーとして NEC と東芝を含む 45 社、大学 30 校が登録している。NEC はオックスフォード大学とプライバシー関連の共同研究を実施しているとのこと。UCL では日本企業との連携をさらに進めたいと考えているとのことだった。

5. TechUK

22 日夕方にはイギリスの ICT 業界団体であり、JISA のカウンターパート協会である TechUK を訪問した。TechUK は現在の会員数 900 社、で、日系企業も多く会員になっているとのこと。協会事業の主な目的は、会員企業間、または政府や大学とのネットワーク作り、マーケットの育成、ビジネスコストの削減、ビジネスリスクの削減、とのことで、2017 年の重要な問題としては、英国の欧州連合 離脱関連問題への対応、データ関連 (プライバシー保護、セキュリティ、越境移転)、新ビジネスに必要な人材の育成、新ビジネスに重要な AI やロボティクス、国際通商取引に関わる問題、とのことだった。

特に欧州連合離脱については、現在、欧州への展開のためにイギリスに拠点を置く日系企業も多いため、離脱はそのような日系企業にとって大きな影響があると考えられるとのことだった。また、欧州と米国との間で合意されている個人情報移転フレームワーク (プライバシー・シールド) にあたる、欧州と英国間のフレームワーク (data adequacy) の合意に向け、産業界として政府に強く要望しているとのことであった。

6. ケンブリッジ・コンサルタンツ

23 日にはケンブリッジへ移動し、ケンブリッジ・コンサルタンツを訪問した。同社は 56 年にわたり、高度な技術を活用して顧客のビジネスにイノベーションをもたらし、成長させるためのコンサルティングを行っており、様々な分野における世界トップクラスの技術者 700 名以上をスタッフに持ち、世界中の製品・サービス開発におけるイノベーションをリードしてきたとのこと。

ロンドンの地下鉄の乗車率が、例えばどこかの区間がストップした場合、その影響で他の路線がどれだけ乗車率が増えるかのシュミレーションシステム、普通の携帯電話では地球上の 5% でしかつながらないのに対し、地球上のどこにいても 100% 通信可能な衛星ライト通信システムであるイリディウム、人が演奏するピアノの演奏を AI を使ってどのジャンルの曲かを的確に判断するプログラムなどのデモンストレーションを見学した。

夜には、ケンブリッジ大学内において、ケンブリッジ大学ジャッジスクール (ビジネススクール) の Michael Barrett 教授を招待して夕食会を行った。

7. Wayra 社

24 日にはロンドンへ戻り、スペインの携帯電話会社であるテレフォニカが出資するアクセレーターWayra 社を訪問した。

同社で行うスタートアップ等を育成するコースでは、資金的なサポートだけでなく、ビジネス拡大のためのサポートを行っており、毎回約 400 社が応募し、審査の結果 20 社のみが同社のコースに参加できる。さらに、その中で最終的に成功する会社はそのわずか 20% の 4 社程度とのことだった。現在、同社のコースに参加しているいくつかの企業として、レストランや小売店での順番待ちシステム、防犯カメラや入退室管理カードなどの個別のセキュリティシステムを統合して管理するシステム等の紹介が行われた。



ドイツ itelligence 社にて

以上